

わたしの安全保障はこれだ！

あなたは平和のスポンサー



掲載日・掲載紙 2025年8月6日(水)

朝日新聞朝刊全国版全15段
中国新聞朝刊全15段(予定)

みんなで作る意見広告 ○○○募集中

6月末締切

振替用紙のメッセージ欄に
あなたの○○○を書いてお寄せください。

◆あなたの意思表示が、憲法を活かす大きな力に！◆

日本国憲法は平和に生きる権利を保障し、九条はそれを支えてきました。あなたの名前を新聞に載せて“STOP! 憲法改悪”の意思表示を！尊重し合い、共に生き、子どもたちの未来のためにずっと九条を！8.6新聞意見広告にぜひ！ご参加ください。

▼8.6意見広告のチラシは何枚でも送りますので遠慮なくご連絡ください

わたしの「安全保障」って何だろう？ 地震大国日本の災害対策？ 今年の冬は山火事も多発、大水害への備えも必要。安心していける病院や介護のための対策、差別・格差のない社会、食料自給率の低い日本の農業政策、おいしい食べ物があるとみんな笑顔になって幸せ。安全保障は決して「台湾有事」に備える大軍拡でも核抑止力でもない。

子どもの未来のための教育、ジェンダー平等や選択的夫婦別姓を求める人、原発なしで暮らしたい人、大軍拡が進み被害者になるのも、ましてや加害者になるのもイヤという人、また核と人類は共存できないと核廃絶に向けたたかう人、周りにはそんな人がたくさんいる。わたしにとっては、そんな人たちこそ大きな安全保障かもしれない。

昨秋の衆議院選で明らかに政治は変わった。被団協のノーベル賞受賞も希望だ。武力で平和は築けない。参議院選へ向け、諦めず主張していく。「わたしの安全保障はこれだ」

憲法を活かそう
ストップ改憲！

8.6新聞意見広告2025にご参加ください！

2025 平和といのちと人権を！ 5・3ヒロシマ憲法集会

非道の時代の 平和論

食の歴史学のアプローチ

5月3日(憲法記念日)
13時半～16時

広島県民文化センターホール

第1部 歌や音楽でアピール
第2部 講演会

講師 藤原辰史さん

京大大学人文科学研究教授



ふじはら・たつし 1976年北海道生まれ、鳥取県鳥取市。2025年4月から京大大学人文科学研究教授

主催：ヒロシマ総がかり行動（三次、三原、福山各会場オンラインあり）

5.3憲法シール投票

5月3日(土) 11時半～12時 元安橋

あなたはどっち？

9条を 変える？ 変えない？

主催：ヒロシマ女たちの会

参議院選挙に向けて
私たち市民はどう対抗するか



少数与党の下でも進む
憲法9条の形骸化・実質改憲

5/17(土) 17:30～

広島市まちづくり市民交流プラザ

講師：清水雅彦さん（日本体育大学教授 憲法学）

会報124号 もくじ

- 8.6新聞意見広告2025にご参加を！ 憲法学習会や行動のお知らせ
- 9条の力を 呼びかけ人からのメッセージ …… 藤井純子
- 航空機としての資格がないオスプレイ …… 湯浅一郎
- 水を守りたい～「ストップ本郷産廃処分場」のとりくみ～ …… 森山洋子
- 「家制度」の幻影を振り払おう！ 夫婦別姓も選べる社会へ！ 恩地いづみ
- 『ひろしま平和ノート』を問う 一美甘草子教材 …… 岸直人
- 武力行使へ、あくまで反対するために 呉に暮らして …… 平賀伸一
- のらフェミ通信『同じ声をもつ様々な女性たちとの活動』 …… 川上 文
- 北海道「笹の墓標強制労働博物館」開館 …… 吉川徹忍
- 私にとって日本国憲法とは …… 会員の皆さんから
- 17活動報告 18 お知らせ・後記

「核のない未来を！
世界核被害者
フォーラムに向けて」

森瀧春子さん
(核兵器廃絶をめざす
ヒロシマの会共同代表)



広島平和記念（原爆）資料館会議室 1 にて

3 月 20 日、第九条の会ヒロシマ 33 周年記念集会では、原爆投下から 80 年、森瀧春子さんの講演を聞き、「世界の核被害者フォーラム」を成功させようと決意を新たにした。新田秀樹さんの「岩国米軍基地・呉の海自基地の強化」が進んでいること、それに抗い闘っている人がいることを多くの人に知ってもらって声にしていきたいと思った。また、第九条の会ヒロシマは総会で 25 年度が始動し「戦争させない、ストップ改憲！ 8.6 新聞意見広告」掲載に向け、今年も全力で取り組むことを会員の皆さんと確認した。

9 条の空洞化は甚だしい。今年度の防衛費予算は 8.7 兆円、昨年同様の補正となれば 9 兆円を超え、毎年 1 兆円づつ増加する計算だ。赤ちゃんも含め一人当たり税金が年間 8000 円、来年は 9000 円、次は 1 万円にもなるということ。しかも「反撃」と言いわけ専守防衛を投げ捨てる。敵基地「攻撃」にも使われるとすれば黙っているわけにはいかない。加害者にされるのは絶対ゴメンだ。

9 条があるのになぜ大軍拡できるのだろう？「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」とする 9 条を持ちながら。「9 条は死んでいる」「自衛隊と言わないで軍隊と呼んだらどうか」と息まく人もいる。そういえば 92 年、呉から掃海部隊がペルシャ湾に出て行った時も「海外派兵だ」と怒り叫んだ。

それでも自衛隊は軍隊ではなく「実力組織」だし派兵ではなく「海外派遣」であると思い直す。閣議で集団的自衛権行使が容認され、安保 3 文書が決定されても政府・改憲派は「憲法改正」を急ぐのはなぜか。やはり私たち以上に 9 条の力を知っているからだろう。そのため政府は外堀を埋めることに腐心した。特定秘密保護法、内閣法制局長官の人事介入、武器禁輸 3 原則、防衛装備移転、安保関連法、共謀罪、学会議会員任命の拒否、特定土地利用規制法、経済安保、地方自治法改定と強行採決を続け外堀はどのくらい埋められたのか。

「知り、つながり、とめる
大軍拡・戦争準備」

新田秀樹さん
(ピースリンク広島
・呉・岩国世話人)



藤井純子（第九条の会ヒロシマ世話人代表）

「戦争止めよう！ 沖縄・西日本ネットワーク」結成集会が 2 月 22 日に開催され、各地で取り組む人たちが会場に 300 人、オンラインで 200 人、広島から 5 人で参加した。翌 23 日は、ミサイル弾薬庫や野外演習所、オスプレイ配備と大軍事拠点化計画が進むさつま町で頑張っている現地の人々と交流し「知り、つながり、止める」ことを確認した。静かだが過疎の進むさつま町に弾薬庫新設が強引に進められている。町議会や商工会は町民に知らせることなく建設誘致のための請願を行ったらしい。川内原発、陸自の演習場が近く、鹿児島空港や川内港による輸送もしやすく、防衛省にとって非常に便利な場所だろうと思われる。調査に 10 億円、設計費 2 億円と過疎の町をお金で揺さぶっている。弾薬庫建設のためにトンネルをつくる工事は山を削り、水を汚す。「お金のために私たちの暮らしが壊され、それが戦争につながるのとはたまらない」。



「戦争止めよう！ 沖縄・西日本ネットワーク」結成集会（鹿児島）



さつま町フィールドワークと街頭宣伝

他国のミサイル基地を破壊する反撃＝敵基地攻撃のための長射程ミサイル地上発射型を九州の大分と熊本に先行配備することを発表した。中国の台湾への武力侵攻に対し、南西地域の防衛体制強化を優先する必要があると危機を煽る。先行配備は大分の由布市と熊本

市の駐屯地であるが、先行とは、ほかの所に配備が続くということ。中国にほど近い沖縄県への配備は緊張を過度に高めるから先行配備の対象にはしないなど勝手な解釈をし、射程約千キロのミサイルを九州に配備すれば朝鮮や中国沿岸部が射程内となる。いずれにせよ地元は攻撃する側、される側になり、住民の納得が得られるとは思えない。政府は沖縄と同様に飴と鞭で分断し地元を苦しめることになる。

3月24日、陸海空統合戦司令部が発足した。3 自衛隊を一元的に指揮監督する司令部を市ヶ谷に、何と呉には陸自海上輸送群司令部が置かれた。南西諸島への人員や装備品輸送を迅速にする防衛力強化だと防衛省はいうが、再び呉を軍事拠点にしてはならない。ピースリンク広島・呉・岩国は、海自呉総監部門前で「呉に司令部を置く自衛隊海上輸送群の配備撤回を求め、日米軍事一体化のかなめとなる統合戦司令部設置」に要請文を提出し抗議行動を行った。



3月24日、ピースリンク 海自呉総監部への要請行動

「いつになったら気づくのだろう 戦争の悲惨さや無意味さや戦争は何も生み出さないことを」これは『花はどこへ行った』の一節だ。ウクライナ民謡にルーツを持つこの歌をこの頃よく思い出す。ウクライナは大国ロシアのものでもアメリカのものでもない。とても難しいことだろうが、ウクライナをどうするかはウクライナの人が決め、日本の役割は、その決定を尊重して支援をすることだと思う。

非核・非軍事が私たちの願いだ。80 年間「国権の発動たる戦争」は起きてないし、明文改憲もされていない。しかし大軍拡は進み、集団的自衛権行使が容認され、同盟国が攻撃を受け、もし日本が「存立危機事態」と誰かがどこかで勝手に判断すれば、戦争はすぐそこだ。軍備は、備えれば備えるほど近隣諸国との摩擦は大きくなり、核抑止力に際限はない。中国の脅威を煽って備えが必要というが、台湾有事はむしろ軍拡を進める日本がつくりだしているのではないか。5月17日の清水雅彦さんの講演は待ち遠しいが「日本国憲法九条の規範力」はまだまだ生きているはずだ。本来の9条の力、それを活かすのは、全国でつながり憲法改悪反対の行動をしている市民、わたしたちだ。2025年3月25日

8.6 新聞意見広告 2025 「呼びかけ人」からのメッセージ

岡西清隆（九条の会・呉代表）… 呉に「敵基地攻撃の拠点」は要らない！ 日鉄跡地防衛省案に断固反対！
小武正教（僧侶・念仏者九条の会共同代表）… 戦後80年が平和への起点の年となるように頑張りましょう
恩地いづみ（医師・ジェンダーを考える広島県民有志）平和を、人権を、諦めない
長谷憲（広島県保険医協会理事長）… 「生命と健康を守る」ことを社会的使命とする医師・歯科医師として、軍事費優先ではなく憲法9条・25条にもとづき社会保障が充実されることを強く求めます。

西本章（元福山市議会議員）

8.6 新聞意見広告は、仲間に、年1回の生存証明に

原田健・岡本博美（九条の会・おのみち）…

80年前の8月9日「わたしの子を返せー！」と叫んでいた若い母親の背には頭の無い子が背負われていた。

村田民雄（市民運動交流センターふくやま・代表）

軍拡競争では幸せはやってきません。具体的に平和政策を推進し、未来を切り拓いていきましょう。

山今彰… 自公政権は、1377兆円を超える国の借金を減らせるのか！ 子や孫にツケをまわしてはいけない。

池田年宏（ピースサイクルおおいだ代表）

若者の未来を照らすのは、世界に誓った憲法9条。自衛官の命を守るのは、戦争をしないこと。年寄りが望むのは、穏やかでやさしい暮らし。「あなたは戦争に賛成ですか？」

若尾典子（憲法研究者）核禁条約締結国の仲間入りを！

梶原得三郎（草の根の会・中津代表）

憲法9条は不戦の誓い 戦争をしてはならぬ！

崎山比早子（高木学校メンバー）

核と戦争のない世界をめざそう！

武田隆雄（日本山妙法寺僧侶）

不殺生・非暴力の憲法第九条を守ります

脇義重（戦争法を廃止する会）原爆は人的被害を測るために、人口密集地広島市に投下されたのだと思います。ドイツが降伏した後、原爆を落とせるのは継戦中の国は日本だけでした。米国は投下後直後に広島で人的被害調査を行いました。また投下候補地に最後まで人口密集地の京都市が残りました。犠牲になるのは住民です。戦争も核兵器使用もしてはならないのです。

殿平善彦（日本宗教者平和協議会代表委員、一乗寺住職）

核のない平和な未来を共に

山内敏弘（憲法研究者）改憲をストップし、

核兵器禁止条約に日本も参加しましょう

清水雅彦（日本体育大学教授・憲法学）

昨年の衆院選で改憲勢力は3分の2を下回る結果となりました。そのため以前より明文改憲は難しくなりましたが「安保3文書」の具体化など実質改憲は進みます。その具体化を進めれば進めるほど自衛隊の実態と憲法9条の矛盾は大きくなります。この矛盾解消のためにも改憲勢力は9条改憲をあきらめていません。9条改憲をさせないためにも、「安保3文書」具体化させない取組をしていきましょう。

航空機としての資格がないオスプレイ

ーギアボックスに致命的欠陥が続出ー



2007 年 9 月、オスプレイが初めてイラクに派兵されてから 17 年半がたつ。現在、日本には在日米軍に普天間基地 24 機（海兵隊）、横田基地 5 機（空軍）、岩国基地 4 機（海軍）の計 33 機が、千葉県木更津基地に陸自オスプレイ 17 機、合計で 50 機が配備されている。世界全体で約 480 機といわれるので、1 割強が日本配備ということになる。ところが、ここ 3 年ほど、そもそも航空機としての資格がないのではないかと思わせる事態が続いている。これまでオスプレイの事故は、ほとんどの場合、パイロットの人為的ミスが事故原因であり、機体そのものに欠陥はないと説明されてきたが、その様相が変わってきたのである。

1. クラッチの不具合

2022 年 8 月 16 日、米空軍特殊作戦司令部は、エンジンとプロペラローターをつなぐギアボックス内のクラッチの不具合（ハード・クラッチ・エンゲージメント、以下 HCE）を理由に空軍用オスプレイ全 52 機の飛行を停止させた。背景には過去 6 週間に発生した 2 件を加え 2017 年以降合計 4 件の事故が発生したことがある。防衛省によれば、「HCE とは、プロペラとそのエンジンをつなぐギアボックス内のクラッチが原因不明で離れ、再結合する際に衝撃が発生する現象」とされる。

しかし 9 月 2 日、米空軍は飛行再開を決定した（注 1）。9 月 8 日、私も属する「オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会」は、衆議院第 2 議員会館においてクラッチ問題につき防衛省と交渉を持った。

連絡会：何で HCE のようなことが起こるのか？ 特殊作戦司令部の広報担当官が、「根本原因を正確に特定するのに十分なエンジニアリング・データ分析を収集することができなかった。そのため、この問題が機械的なものか、設計上のものか、ソフトウェアによるものか、またはそれらの組み合わせによるものかはわからない」と言ってますね。まさか 2 週間でそれが解決したわけではないですよね。

湯浅一郎（オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会代表世話人、ピースデポ前代表）

防衛省：根本的な原因については米側も長期的な課題として調査中であると。

連絡会：そういう状態で、安定的に飛行していく保証って、本当にあるんですか？

原因がわからないのに対処法はわかる？その状態が配備されてから十何年経って、ずっと続いているわけですよね。それってやはり、構造的な欠陥じゃないんですか。

防衛省：根本的な解決はしていないけれども、対処方法はあるということです。

つまり防衛省は、「HCE が起きる原因はわからないが、対処方法ができていますので、それで対処すればいいので、飛行を再開した」と主張しているわけである。そして 2023 年 2 月 3 日、米軍は、「クラッチに関連する部品（インプット・クイル・アセンブリ、以下、IQA）の飛行時間が 800 時間を超えたものを交換することで、データによれば HCE の発生を 99% 減らすことができる」との勧告を行なった。「IQA はプロップ・ローター・ギアボックス（以下 PRGB）（図 1. 注 2）の構成要素であり、航空機のクラッチを収納している」という。つまりギアボックスの内部にある部品の交換がポイントであったことになる。しかし、HCE の「根本的な原因は依然として不明である」限りにおいて、「99% 減らすことができる」との見通しも絵空事である可能性がある。

さらに 23 年 7 月 21 日、2022 年 6 月のカリフォルニア州の砂漠で海兵隊用 MV22 オスプレイが墜落し、乗員 5 名が死亡した事故の調査報告書が公表された。それによると、この事故は、パイロットや機体整備のミスではなく、機体の構造にかかわる HCE が発生したことが原因で起きたとしている。

2. 屋久島沖事故の原因はギアボックスでの金属片発生に始まるギアボックスの破損

HCE の問題が残ったまま飛行継続されている中で、さらに大きな難題が表面化したのは間もないことであった。2023 年 11 月 29 日、横田基地配備の米空軍 CV22 オスプレイが鹿児島県屋久島沖で墜落し、乗員 8 人全員が死亡した。12 月 7 日、米軍は世界中のオスプレイ全機の運用を停止した。このとき、米軍は、問題の所在を「潜在的物質的不具合」（Potential Material Failure）と表現していた。1 回の事故を機に、オスプレイ全機の飛行を停止するという事態はかつてないことであった。

しかし 2024 年 3 月、米軍は、「各種安全対策措置を講ずることにより、同種の不具合による事故を予防・

図1：プロップローター・ギアボックス（PRGB）の概要図

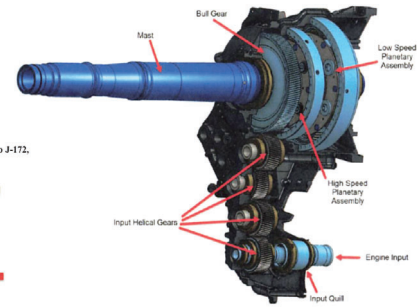


Figure 22. New vs. Five Pieces of Broken High-Speed Planetary Gear Pinion (Tab J-172, and J-421)

図2：5つに破綻したハイスピード・ピニオンギア。左は新品。

対処することができる」として、事故調査報告書も出ていない段階で飛行再開に踏み切った。

2024年8月1日、屋久島沖事故の調査報告書（注3）が公表された。同報告書は、事故機の動きを詳細にフォローしつつ、PRGB内で金属片が生じ、その後1時間弱の間にPRGBが破損したことが事故原因であったとしている。ピニオンギアの一つが砕けて5つに分断した写真（図2）を含め、衝撃的なものである。

事故機は、13:09:45、沖縄に向け岩国基地を離陸。離陸から41分後、1回目の「金属片燃焼の警告灯」（通告）が表示された。その後も通告は5回目まで繰り返された。そして14:21:37、6回目となる警告が、今度は「燃焼できなかった警告灯」が表示された。離陸から約72分、1回目の燃焼処理通告から約30分のことである。この警告が出た場合は「可能な限り速やかに着陸」とされているが、最近傍の黒島などを検討しないまま屋久島空港へ着陸しようとしていた。そして6回目の警告から18分15秒後に海上に墜落した。

結論として「左側のPRGBが破損し、事故機の駆動システムの不具合が急激に生じたことによって事故が発生」し、「左側PRGB内のハイスピード・ピニオンギアの一つにひびが入り、破綻したギアの破片が、他のピニオンギアとサンギアの間挟まり、サンギアの歯車が摩耗し、エンジンからの動力を伝達することができなくなった」とされる。しかし金属片の処理に対する通告が5回あり、6回目に「燃焼しきれなかったという警告」が出ていく過程と、「ピニオンギアの一つに亀裂が入り、破綻したギアの破片」が発生するタイミングがどういう関係にあるのかは不明である。また、そもそも亀裂ができた要因がなにかもわかっていない。ましてや「亀裂の発生」が「ギアの破綻」をもたらし、より大きな破片を生み出していくプロセスも明らかになっていない。

いずれにせよ、小さな金属片の発生が繰り返され、その度に焼却処理を5回くり返した。それが6回目になると次元が変わり、「燃焼しきれなかった」との警告灯がついた。それから約20分後、ピニオンギアの一つから「破片」が生まれ、その破片が他の大きな歯車に挟まり、「エンジンからの動力を伝達できない」状態になり、一気に墜落へと至った。「金属片の燃焼処理に失敗する」事態に至ったとき、対処のしようのない構図が想像できる。

さらに驚くことに「ギアボックスの内部では、ギアが高速回転しているため、様々な部品が摩耗し、金属片が発生」（注4）するとされている。そもそも金属片が発生した時、対処するための焼却装置がついていること自体が異様である。

3. 航空機としての資格が疑われるオスプレイ

PRGB内部での金属片の発生とPRGBの破損、そしてクラッチの不具合（HCE）も、ともに根本原因は不明のままである。運用が始まってから17年半たつにもかかわらず、オスプレイは、重要な部品の安全性をめぐる不安を抱えながら運用されている。2022年8月以前は、仮にクラスA事故が起きても、常に原因はパイロットのミスなど人為的要素によるもので、機体に問題はないと説明してきた。しかし、2022年6月、カリフォルニア事故、2023年11月の屋久島沖事故は、ともにPRGBという「重要な部品の不具合」が原因であり、機体の不備による事故が続いている。これは、オスプレイが航空機としての資格を有していないことを示しているのではないかと。

2012年10月、12機のMV22オスプレイが普天間基地に配備されてから丸13年が経つ今になって、このような問題が露呈していることは極めて重大である。この13年間、ギアボックス内部での金属片の発生と疲労亀裂の問題やクラッチの不具合という基本的問題を抱えたまま、オスプレイは日本列島の空を飛び回っていたのである。これは、市民の安全をないがしろにする姿勢そのものである。これまで幸いにも日本周辺での墜落事故は陸地では起きていないが、陸地で起これば、基地周辺や飛行ルート下の住民の生活と命にかかわり、陸上自衛隊員の安全にもかかわる重大な問題である。配備そのものを撤回すべき状態であることを訴えていくべき時である。

注：1. 昭島市 HP

<https://www.city.akishima.lg.jp/s009/010/050/010/240/040/040906bouei.pdf>

注：2. 概要図を図1に示す。

英語で Proprotor Gearbox。エンジンの動力をプロペラローターにつなぐ役割を持つ装置。

注：3. 米空軍航空機事故調査委員会報告書

<https://www.afjag.af.mil/LinkClick.aspx?fileticket=ENTTeS2T9go%3d&portalid=77>

注：4. 防衛省「屋久島の沖合で発生した米空軍横田基地所属のCV-22オスプレイの墜落事故に関する事故調査報告書について」2024年8月2日。

5 <https://www.mod.go.jp/j/press/news/2024/08/02a.pdf>

水を守りたい～「ストップ本郷処分場」の取り組み

森山洋子（原告団事務局）

「自分の家の水道の蛇口から出る水がどこから来ているか知っていますか？」6年前、私は答えられなかった。2019年春、退職したての私の耳に「東京の業者の安定型最終産廃処分場が三原市と竹原市との境にある分水嶺に作られようとしている」と聞こえてきた。分からない単語に辞書を引く日々が始まった。多くの人は「ゴミはだれでも出すじゃけえどこかに処分場はあるし、それを管轄する広島県が許可を出すんなら仕方ない」と思っていたようだ。しかし勉強していくと「ゴミは減らせる。広島県の産廃行政もこの業者もおかしい」と思うようになった。裁判は時間も金もかかるから、作られないように署名、意見書など思いつくことを片っ端からやった。業者が作った申請書を市役所などで「縦覧」するので見に行ったが、分厚い文字と数字の羅列で「素人は引っ込んで」と言われたように感じた。

2020年、県が設置許可を出し、建設が始まり、万策尽きて517人の原告団と7人の弁護団を作り、裁判を二つ提起した。一つは業者を相手取り「処分場の建設・使用・操業の差し止めを求める仮処分」で、長い裁判だと被害が出てしまうので簡易的な裁判にした。私たちはその業者が1993年から運営している広島市の上安処分場を見に行った。安佐動物公園の南東にある処分場の調整池は県道268号線から見えた。処分場の排水は太田川に続く川に流されている。それは泡立った茶色の臭い水で調整池は堆積物で覆われ見るも無残な姿だった。「これは酷い！」と日を改め、学者に同行していただき、川への排水口の水を採った。専門機関に検査を頼んだら水の汚れを示すBODが50mg/L（基準値は20）だった。上安処分場を拡張する申請書の縦覧があったので見に行った。見るポイントは「生活環境影響調査」のページ。びっくりした。一例をあげる。安定型産廃処分場は素掘りの山に安定5品目という付着物がないとされる産廃と土を交互に積み上げたものだ。雨で産廃を通った浸透水が川に流れる。もう一つの水の汚れを示すCODが76mg/L（基準値40）だという数字が出ていた。産廃課で指摘したら大したことないと

いう反応で更にびっくりした。今の県なら黒塗りか即搬入ストップの行政指導レベルだ。補足すると、許可を取りやすくするため、業者は処分場を小さく申請して後で拡張する。更に、縦覧終了の翌日、土砂災害特別警戒区域が本郷の計画地にあることが発表された。

2021年、仮処分は「浄水享受権」「平穏生活権」が認められ勝訴し、処分場がストップした。しかし、異議を申し立てられ、2022年抗告審で負け翌日から建設が再開した。決定（判決）を聞きに出発する前、処分場に新品の重機がずらっと並んでいた。手回しが良すぎやしないか！？そして2022年9月から地元で処理できない産廃が全国から搬入され始めた。広島は水源を保護する条例もなく、全国で3番目に処分場が多い。半年もたたないうちに汚水が目立ち始め、直下の半分の農家が2024年の稲作付けを断念した。

もう一つが広島県を相手取った「設置許可取り消しの行政訴訟」だ。のらりくらの県の対応だったが2023年、県の許可の過程に「看過しがたい過誤欠落」があると私たちは勝訴した。しかし、県が控訴したので判決が確定せず産廃は搬入し続けられ今までに約66,500tの産廃が埋め立てられた。また、裁判に参加人として業者が加わった。被告席に県の職員と業者とそれぞれの弁護士が並ぶなんて信じられない光景である。湯崎県知事は「おいてけぼりを出さない県政」を行うのではないのか！？

この間、杜撰な操業で業者は4度の行政指導を受け、今も搬入はストップしていて、業者は排水の検査値があがらないように排水をポンプアップしてどこかに持って行ったり、穴を掘って溜めたりしているが、私たちの自主水質検査ではこの1月まで毎日基準値越えの数値が出た。考えてみてほしい。すべての汚水が調整池に入るわけではなく、広島市も三原市も山や土地に汚染物質が入った水は染み込み、地下水に混ざり、農作物が取り込み、動物や人間に溜まっていく。

下流の人々にはそれが見えない。私は家族がアトピー性皮膚炎や被爆者だったので、化学物質や放射性物質が付着した産廃が搬入され、証拠がないまま被害を受けないかと心配している。私の住む竹原市は豊かな地下水がたくさんあるところだ。水道水はほとんどが井戸水で、中には浄水しなくてよい水もある（水道法のためカルキは入る）。今は水道代も驚くほど安い（実家のある広島市の1/3）。控訴審は4月11日、5月30日と続く。

*詳しくは「ストップ本郷処分場」HP、FBをご覧ください。



もう「家制度」の幻影を振り払おう！

— 「夫婦別姓も選べる社会へ！訴訟」陳述書大募集にご協力を —



恩地いづみ（別姓訴訟を支える会）

第三次別姓訴訟は

1月16日東京第3回と31日札幌第2回それぞれの期日があり、どちらも7つの書面（第3～第9準備書面）を提出しました＊1。

新たに展開した主張は「夫婦同氏制度は憲法14条1項の法の下での平等に反する」というものです（第4準備書面）。訴訟団が依頼して行った大阪大学大学院の三浦麻子教授による調査で、約4分の3の夫婦が夫婦の氏の選択についてそもそも「話し合いをしていない」という回答を得ました。

婚姻で二人のうち一人は氏名を変えず、もう一人はそれまでの氏を失い多くの改姓手続をした上で別人（それまでとは異なる氏名の人物）になる、その改姓が不都合な場合は「旧姓通称」という正式でない氏名と改姓後の戸籍名とを使う煩雑な二重氏名生活を送ることになる。この、二人が真に平等とは言えない婚姻改姓について、多くの夫婦が話し合いもしていないのです。

2015年の最高裁判決は「この現状が、夫婦となろうとする者双方の真に自由な選択の結果によるものかについて留意が求められるところであり、仮に、社会に存する差別的な意識や慣習による影響があるのであれば、その影響を排除して夫婦間に実質的な平等が保たれるように図ることは、憲法14条1項の趣旨に沿うものであるといえる。」と言っています。話し合わずにされた氏の選択で、約95%が夫の氏を選んでいる不均衡は、背景に性差別的な意識や慣習の影響があるといえるでしょう。この意識や慣習を助長・固定化する夫婦同氏制度は憲法14条1項に違反すると主張しています。

また、第9準備書面は、弁護団で確認できた95か国の状況について整理し、婚姻後も氏を保持することが人格権やプライバシー（私生活の自由）の権利として国際的に確立していることを詳細にまとめた貴重な書面となっています。メールマガジンで各書面についてポイント解説をしています＊2。

次の期日は5月（東京）と6月（札幌）です。傍聴やオンライン報告会視聴で応援をお願いします。

署名にご協力を！
選択的夫婦別姓制度導入の民法改正を求める請願
衆・参両院への請願書名です

国会は

自民ワーキングチームの会合では賛否は平行線で調整は非常に難しいようです。一戸籍一氏という「家制度」様の形を固持したい反対派の「通称使用拡大」という声が大きく聞こえてきます。

公明、立憲民主、共産は人権問題として選択的夫婦別姓に賛成の姿勢で取り組んでいますが、キャスティングボートを握る国民民主の幹部から子どもの姓の議論が不十分だなど慎重な発言がでたり、維新は党内に反対派を多く擁し、通称使用案を維新版選択的夫婦別姓と言うなど、全く予断を許さない状況です。制度を求める市民団体だけでなく、労働団体、経済団体、日弁連が「選択的夫婦別姓」を、と声をあげ、ロビー活動を活発に行っていますが、更に声をあげることが必要です。

「あなたの陳述書 裁判所に届け！動かせ！ 目指せ一万通大作戦！」

このような中、第三次別姓訴訟は司法の厚い壁に向かっていきます。「改姓くらいなんてことない」、「少数が求めていることでしょ」そんな誤解を持っている人が、裁判官の中にもいるようです。

びっくりするほどたくさんの陳述書で私たちにとってどれだけ深刻な問題であるか、裁判官に訴えようと下記のごとく陳述書大募集を始めます。一人でも多くの方のご参加をお願いいたします！

【対 象】 法律婚、事実婚、未婚を問わず、どなたでもご応募可能です！

【内 容】 数行程度でも構いません。最大4000字。
氏名は人格権であり、現在の民法が定める夫婦同氏強制制度は人権侵害！たくさんの声を裁判所に届けましょう。

【詳 細】 以下のサイトをご参照ください。サイトにあるフォームから記入できます。

https://bessei.net/call_for_statements/

【締 切】 2025年5月31日

＊1 別姓訴訟を支える会ウェブサイト
https://bessei.net/3rd_trial/

＊2 3～9準備書面の解説
https://bessei.net/mail_magazine_126/



『ひろしま平和ノート』を問う

みかも あきこ
美甘章子教材『8時15分ヒロシマを生きぬいて許す心』の検討

岸直人（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）

3月15日広島弁護士会館で高橋博子・奈良大学教授を招き『『ひろしま平和ノート（以下、平和ノート）』を問う市民シンポジウム』を開催した。目的は、2023年度に改訂された広島市教委作成の平和教育副教材の平和ノートに、新たに採用された美甘章子著『8時15分ヒロシマを生きぬいて許す心』（以下、美甘教材）の教材内容が平和教育に適切なものかを市民に問い考えるためである。参加者は会場、オンライン、事後視聴含め150名。多くの市民が平和ノートに関心を持っていることに励まされた。（以下、敬称略）

1. 美甘章子教材の問題性

改訂版中学3年の美甘の父進示の言葉

- ・原爆を落とした米国人を恨むな。
 - ・戦争ではどの国もひどいことをしていたし、日本も例外ではない。
 - ・アメリカが悪いのではなく戦争が悪いのであって、立場の違う人たちのことを理解しようとしなさい、もしくは自分の利益追求に走ってしまう人間の弱さが戦争につながる。どちらが悪いという考え方は全く意味がない。
- 「学習のねらい」では、「世界で平和を発信する人々の言葉や活動に込められた思いや願いを考える」ように設定されているため、進示の言葉について授業の中で多面的に検討することはなく、そのまま平和教育の結論のように生徒に伝わる指導案になっている。

（1）「原爆を落とした米国人を恨むな」という進示の思いや願いを考えるだけでいいのか？

進示の言葉は「米国人を恨むな」「アメリカが悪いのではない」「人間の弱さが戦争につながる」と、生徒自身の戦争や平和の考え方を制限してしまう恐れがある。アメリカやアメリカ人に対する被爆者の思いは、それぞれの人生にそれぞれの思いがあると考えべきである。進示は「米国人を恨まない」道を生きたが、「恨む」被爆者の思いも考えることで被爆者の思いを広く深く考える平和学習が行われる必要がある。

（2）「戦争ではどの国もひどいことをしていたし、日本も例外ではない。」戦争の実相を市教委は平和教育で教えようとしていないのではないのか？

中国、シンガポール、韓国などの戦争資料館や教科書には侵略した日本軍による虐殺の実相が展示、記載されている。日本はアジアの植民地政策の中でひどいこと＝加害をした事実がある。しかし、平和ノートには日本の加害は記載されていない。進示の言葉を補う

ために加害の実相を説明しなければ日本の加害の事実が伝わらない。

（3）「アメリカが悪いのではなく戦争が悪い・・・人間の弱さが戦争につながる。」

どちらが悪いという考え方は全く意味がない
「米国人を恨むな」「どの国もひどいことをした」「アメリカが悪いのではない」という進示の考えは、生徒には「米国の原爆投下責任を問わない」認識を育てることにつながる。また悪いのは日本でもアメリカでもなく「戦争が悪い」という考えでは戦争の原因や構造を考えない平和教育になる。

もう一つの結論、戦争の原因を「人間の弱さ」だとしてよいのか。日本大百科事典は、戦争は主権国家の間で相当の期間継続して相当の規模で行われる軍事力の行使を中心とする全面的闘争状態、と定義する。戦争の原因についての学術研究によれば、人間の感情と欲望、経済政策の失敗、民族間の対立、内戦と代理戦争、歴史的背景などの要因が複雑に絡み合い、戦争へと発展すると考えられる。生徒が短時間で戦争の原因を理解するのは困難だが、広島市教委が進示の言葉を使い、戦争の原因は「人間の弱さ」とする平和教育は間違った戦争認識を生徒に育てる。

（4）なぜ美甘教材は米国の原爆投下責任を問わず、米国の「許す」のか？ その理由は『8時15分』の「あとがき」に詳しく説明されていた。

美甘進示さん・章子さん
「原爆を落とした米国人を恨むな。平和の懸け橋になれ。」

私は、自分がこの世に送り出された理由は（略）「想像を絶する苦痛と苦悩を講じたあの戦争で敵同士であった2つの国が、今は最強のパートナーとなり協力体制にあることで、平和と調和が確立されている」という史実をお手本に、平和について世界の人々に語りかけることであると。

日本とアメリカは、第二次世界大戦中は史上最悪とも言える敵国同士でした。しかし、今はそれを乗り越えて、強い絆を持つ仲間なのです。（略）世界中の人たちがこの本を読んで、万国共通の人間性の根底ともなる〈許す心〉と〈共感〉を学び、自分の人生の中でそれを応用する方法を見つけることが私の願いです。適切な意図を持って努力すれば、昨日の敵は明日の友となれるのですから。これこそが、私が世界に希望するビジョンです。



これを読めば、広島市教委は美甘教材を利用してヒロシマの子どもたちにアメリカを「許し」アメリカと協力して「平和」を作る教育を進めることが見えてくる。

2 平和ノートはアメリカと原爆開発の関係を隠した？

旧版の平和ノートから『はだしのゲン』『中沢啓治の被爆体験』の削除により、アメリカによる原爆被害の実相を被爆者の言葉としてリアルに伝える教材がなくなり、「第五福竜丸」削除は、アメリカの水爆実験に市民が抗議して原水禁運動を始めたことを学ぶ機会を失わせた。

さらに、中2で原爆被害の情報統制（プレスコード）、核兵器の非人道性、中3でアメリカの核兵器開発、高1でアメリカのマンハッタン計画、高2でアメリカの核兵器開発競争の記述がすべて削除された。また、旧版にも改訂版のどこにも原爆を落としたのが「アメリカ」だということは書かれていなかったことも改めて確認した。改訂版では原爆とアメリカの関係はすべて削除されたのである。

3 平和ノートは、生徒に「核抑止政策」を受け入れさせるのか？

中学2年の指導資料には「外務省公式 HP を事前に確認して指導すること」と書かれ、HP には「日米同盟の下で核兵器を有する米国の抑止力を維持することが必要」と、日本が核禁条約に参加しない理由を生徒に説明する。そう考えると、平和ノートからアメリカの核抑止政策に不都合な「核兵器開発とアメリカ」に関する記述が消えた理由が理解できる。

4. 結論として ー「ひろしま平和ノート」は何をめざすのか？

この改訂で平和ノートは核廃絶を目指す教育から遠ざかり、米国の核抑止政策を容認し、日米の軍事協力（パートナーシップ）を進める副教材に変質した。

2023年のG7広島サミットで採択された「広島ビジョン」は核兵器廃絶を究極の後景に追いやり核抑止力の必要性を強調した。今回の平和ノートの改訂で、日本政府の核抑止安全保障政策を容認し児童生徒に受け入れる文脈に不適当な教材を削除し、文脈にマッチする美甘教材を採択したといえる。

臨床心理士として美甘が主張する「許す心」や「和解」の重要性も、原爆攻撃の違法性の追及や日本の侵略戦

争の被害者による戦後補償要求の文脈には全く交わることなく語られる。彼女の問題提起は、あくまでも原爆投下のその時点からスタートしている。

そもそも広島の平和教育とはどうあるべきなのだろうか。被爆者の被爆体験を原点として、被害の実相を伝え、原爆の投下責任、核兵器の非人道性をふまえて核兵器廃絶運動を知り、平和と人権を発展させてきた民衆の力を学ぶ。同時にアジア太平洋戦争で侵略軍を送り出した軍都広島から日本の加害の歴史も併せて学ぶことによって日本の近現代史における戦争をより科学的にとらえ、核廃絶と真の世界平和を実現していく実践力を育む。そのような内容が学校現場の教職員によって長年追求されてきた。しかし、平和ノートは、旧版の段階から軍都広島の歴史を学ぶ視点はほぼ皆無であり、唯一『はだしのゲン』に出てくる戦前戦中の広島街や日本社会の描写が貴重な教材だった。それすら排除して、さらに美甘関連の教材が大量に掲載された平和ノートによる平和教育が、未来を担う子どもたちを、被爆者と私たちの真の願いである核廃絶への学習から遠ざける教材となっていることを指摘せざるを得ない。

また、国の安全保障政策を扱う場合は、政権に都合のよい教材を提示するのではなく、社会の中の人権を軸とした多面的多角的な視点を提供して児童生徒が自ら考えを形成するのを助ける学習活動こそが必要とされる。しかし、改訂版平和ノートには教育的配慮がされず政府の考え方に生徒を誘導する教材構成がされているので、よりよい副教材へと再改定を求めていきたい。

具体的には、『はだしのゲン』と第五福竜丸の教材は必ず復活させたい。さらに日本被団協のノーベル平和賞受賞についてヒロシマの視点で新たに教材として採用すべきである。核のタブーが壊されようとしている今、被爆者自身や民衆がどのように立ち上がり、政府、世界に自らの被爆体験を訴え、核廃絶、反戦の声をあげてきたのか、その歴史から子どもたちが学べることは限りなく重要である。



呉にくらして 武力行使へ、あくまで反対するために

平賀 伸一（ピースリンク広島・呉・岩国）

ロシア軍のウクライナ侵攻による戦争が、3年を超えて続いている。停戦していたパレスチナのガザ地区でもイスラエル軍による武力行使が再開され、四百人以上が死んだと報道された（2025年3月18日）。米大統領・トランプ氏がウクライナでの戦争、ガザでの戦闘の停戦に乗り出すも、目的は、アメリカの利益と自らの栄達で、人倫に基づくものではない。このような情勢が、国の「大義」や権力者を主語とし、それら・彼らの言葉を第一に使って語られていることに危うさを感じる。それぞれに精一杯生きている市民一人ひとりの存在や、その思い、願いが見えにくくなるからだ。

そして国内においては2025年3月末までに、例えば防衛省が130ヘクタールもの日鉄呉跡地を一括購入した場合にどう「活用」するのか、具体的案が出てくる。また、「台湾有事」で沖縄の先島諸島が戦場になると想定し、そこにくらす人びと（およそ11万人）を、九州7県と山口県へ「避難」させる計画の具体が明らかにされる。どちらも「戦争」に備えて、公務員が、業務として真面目に取り組んできたことだ。その根底にはやはり、国の「大義」がある。

ほとんどの人がもっている、“家族などをはじめとするまわりの人びとや友人知古と平和な社会で安心してくらしたい”（その中にも、健康、天災や事故、安定した生活の継続など、枚挙にいとまのない不安要素がある）という素朴な願いが、「大義」の下で行われる武力行使＝戦争によって、踏みにじられる。そのような状況や、踏みにじられてきた歴史があるのに、再び、同じ過ちを繰り返そうとしている。この現状に対して、どのように抗っていくか。二つのことを提起する。

一つは、旧大日本帝国憲法下の政府（以下、「旧日本政府」という。）が、なぜアメリカと戦争を始めたのか、敗勢が濃くなってもなぜ戦争を止めようとしなかったのかを、自分の手で調べ、自らの思想（その根拠）として保持することだ。敗戦後、日本国憲法施行後の政府（以下、「日本政府」という。）は軍事・防衛面において、何があっても一貫してアメリカの言いなりである。それは80年前、空襲と原爆、沖縄戦で徹底的に日本国土が焼き尽くされたことに起因していると私は考える。旧日本政府は、その武力行使の凄まじさに震え上がり、すっかり従順な「アメリカのポチ」になり下がったのだろう。日本政府が日米安保条約を結んだのは、アメリカの軍勢力が再び日本に向かないようにするためだ、

と学生の頃に読んだ記憶があるが、あながち否定できない気もする。そう考えると、日米安保条約が、国の「三権」よりも実質、上位にあることの理由について理解はできる。しかし、今の事態がさらに進むと、アメリカに追い立てられる形で、日本領域内で武力行使がされる時＝戦争が来るのは必定だ。一つめの提起は、振りかざされる「大義」に個人の主張が飲み込まれないためである。例えば、1945年3月9日～10日にかけて、10万人を超える死者を出した東京大空襲。現人神・天皇の居住する「宮城」（現・皇居）の隣接地域でこれだけの大量殺戮が行われても、旧日本政府は戦争をやめる決断をしていない。3月26日に始まった沖縄戦に至っては、開始直後に「敗戦は必至」と大本営は捉えていたのだ。戦争をやめなかった原因は（始めた原因も）、弱者に犠牲を強いている日本政府のこれまでの在り方にも通じる、きわめて根の深い問題だと思う。

もう一つは、戦争が原因で死んだ人たちに「感謝」をせず、「なぜその人（たち）が死ななければならなかったのか」という角度で、戦争中の歴史事実を学んでいくことだ。「尊い犠牲の上に、現在の平和がある」等とよく言われるが、わずかそれだけの表現で、二千万人を超える膨大な死者（だけではない）を出した歴史を整理してはならない。戦争で、心の底から喜んで死んでいく人などいるだろうか。戦争推進者は、情緒的に人びとを戦争へ煽っていく。犠牲者を「悼み」はするが、「感謝」「美化」はしない姿勢を持ち続け、広げるためにも、学んでいく必要がある。

私の住んでいる呉は、戦前・戦中は「行使する武力」を製造及び操縦する拠点であり、度重なる空襲という形で武力が猛烈に行使された（反撃で行使した）場所である。そして今、また武力行使の準備機能が拡大されようとしている。武力行使がされないためにも、呉で前面に押し出される「観光としての軍事」では示されない歴史事実をこれからも街宣等で訴えていきたい。



同じ声をもつ様々な女性たちとの活動

川上 文 (ジェンダーを考えるひろしま県民有志)

2020 年の秋、私は広島県の働く女性のオンラインイベントを見て絶望していました。広島県で働く女性を代表する登壇者たちは、皆メイクも服も完璧で豪華な花が映り込み、まさに数メートル離れて部屋を明るくして見るべき眩しい状況。そんな状態で「リモートワークが増え、女性には働きやすい環境になり…」と言われても頭に入っていない。マタハラにあい、男性並みを目指してオーバーワークをし、重度の鬱を発症し休職していた私は「広島で働いていくには」とスがる思いで参加しましたが、これが自治体や企業がよくいう「輝く女性の」ということか、女性はこうならないと働き続けられないのか、とうちのめされました。

また、他のこれも広島県のイベントで、様々な職場で働き続けられなかった女性たちを目にした時には、私の不幸は SE という残業と出張の多い職種のせいだと思っていたけれども、どうやら職種のせいだけではなかったことに愕然としました。そして、よくばりハンドブック炎上事件を目にし『ああ、私がこうなったのは広島県内の職場感触では「よくばり」だと思われていたからなんだな』と腹落ちしてしまったのです。

そんな中、安彦さんからジェンダーに関する団体を立ち上げると聞き、フェミニズムも知らないまま参加しました。それがジェンダーを考えるひろしま県民有志です。そこに集まった、様々な職業、年齢、家族構成などの違いがあるけれども、この社会が生きづらいつつ同じ声を持つ女性たち。そこで仲間達と話をし、活動をしていくことで私自身が救われていきました。

私たちの活動は、よくばりハンドブックについて広島県に聞いてみよう伝えてみようオンライン対話を実施する(前回記事記載)ことから始まりました。その後も改訂に向け、お会いして直接の対話も実施しました。そこに女性職員しか来ていただけなかったことは今でも残念に思っています。その後も「まず私たち自身が聞き、知り、学びたい。そして多くの人に知ってもらい地方ジェンダー観をアップデートしたい」と、多くのイベントを開催してきました。

ここにすべて記載することはできませんが(ジェンダーを考えるひろしま県民有志のホームページをご覧ください)、笛美さん、田中美津さん、津田大輔さん、深澤真紀さん、斉藤正美さん、高雄きくえさん、能條桃子さん、乾栄里子さん、吉永磨美さん、アルテイシアさん、上野千鶴子さん…等々、多くの方々をお呼びして、ジェンダーに関するイベントを開催してきました。

他にも、ジェンダー関係本を紹介しあったり身近なジェンダーギャップ体験談を話あうイベント、専業主夫の方や妻氏婚夫の方々に話を聞いてみるイベント、性暴力の裁判や共同親権やデートDVなどについて知り考えるイベント、緊急避妊薬や共同親権のパブリックコメントを書いてみようといったイベント…などを行っています。

そして、継続して活動し続けてきているのが「ジェンダー政策アンケート」です。2022年の参院選に始まり、これまで12回(!)の選挙で実施してきています。

ジェンダーに関する制度や社会の現状についての疑問・困りごとを、立候補者の方々に質問状として送付し、無回答含む回答結果をHPやSNSで公表しています。立候補者ひとりひとりのジェンダー観や問題に取り組む姿勢が可視化され、多くの人に投票の参考にしてほしいと思っています。

過去実施したアンケートの回答結果は、ホームページに載せていますので、その後市長や議員になられている方がどう回答していたのか見ていただくと良いと思います。

今年、この活動を参院選で全国的に展開しようとWAN(ウィメンズアクションネットワーク)にお声がけいただき、オンラインイベントを行うことになっています。政策アンケートは誰でもできます。ぜひご参加ください。

[申し込み]<https://wan.or.jp/article/show/11741>

知識も抗う言葉も知らず絶望の中にいた私が今また歩き出しているのは、同じような生きづらさの声を待つ仲間がいたからです。私達の活動を通じて、多くの絶望の中にいる女性たちが、自分だけではなく同じ声があることを知りエンパワーメントされていくことを望み、今後も活動が続けていきます



東アジアの平和と和解の拠点 ― 北海道「笹の墓標強制労働博物館」開館

吉川徹忍（僧侶、「東アジア共同ワークショップ」広島担当）

森に囲まれた北海道の極寒地・朱鞠内。2024年9月28日（土）、「笹の墓標強制労働博物館」開館記念式典が開かれた。日本、韓国、在日、アイヌ、欧米の老若男女約180名あまりが参加した。追悼儀式は、韓国人、在日韓国・朝鮮人の楽器と踊りで開幕。アイヌ式先祖供養のイチャルパが行われた。仏式追悼法要は殿平善彦さん（「東アジア市民ネットワーク」代表、深川市一乗寺住職）と私たち僧侶が勤めた。ハ・ヨンス（河栄守）さんによる犠牲者追悼と朝鮮半島への望郷の念を込めた「アリラン」がしめやかに演奏された。

1 強制労働犠牲者の遺骨発掘と「笹の墓標展示館」

朱鞠内では1935～1943年、雨龍ダムや名雨線鉄道工事で数千人の朝鮮人、日本人の強制労働で200人を超える犠牲者（うち朝鮮人は45人）があった。1976年9月、殿平さんは朱鞠内湖そばの光頭寺（無住）で、引き取り手のない80基余りの位牌を発見した。死者は共同墓地の裏の熊笹に覆われた森の中に埋められていた。1980年5月から殿平さんたち僧侶や地元住民、高校生たちの遺骨発掘運動が始まった。1991年、犠牲者追悼と東アジアの平和と和解のための「願いの像」を建立。1995年、旧光頭寺は「笹の墓標展示館」として開館した。以来この建物は次の役割を担ってきた。①朝鮮人・日本人強制労働犠牲者の遺骨を発掘・安置し追悼し、遺族に返還する営みの拠点。②朱鞠内や道内各地の強制労働史料と遺骨発掘のあゆみを保存・展示する歴史資料館。③学校・団体の歴史学習、民族・国境や世代を越えた多様な人々の交流（1997年以降の東アジア共同ワークショップも含む）の空間。

2 「東アジア共同ワークショップ」

1989年秋、深川市の喫茶店『ふれっぶ』で、殿平さんと韓国の民主化闘争の闘士だったチョン・ビョンホ（鄭炳浩）さん（後の韓国文化人類学会長、「平和の踏み石」代表）が初めて出会い、以来ビョンホさんは一乗寺に泊まり込んだ。「まだ朱鞠内の熊笹の土の下に日本・朝鮮人強制労働犠牲者が埋まっている」と語る殿平さんに、「僕が教授になったら、韓国から学生を連れてきてお手伝いをする」と語った。



ビョンホさんは漢陽大学教授になった。1997年8月、殿平さんと共同代表になり、朱鞠内での第1回「日韓共同ワークショップ」を開催した。韓国人、在日韓国・朝鮮人、アイヌ、日本の若者たち250名による、寝食を共にした共同遺骨発掘が始まった。2001年からは朝鮮大学校の学生たちも参加し、「東アジア共同ワークショップ」と名称が変わった。その後、毎年夏と冬、韓国、大阪、台湾での調査や交流、そして北海道各地（朱鞠内・浅茅野・美瑛）での遺骨発掘は、台湾、中国、ドイツ、ポーランド、アメリカ、オーストラリアからの若者にも広がり、今日に至っている。「共同生活体験を通じて、集団的偏見を乗り越え個人としての出会いと理解」（チョン・ビョンホ『抗路』記事、2024.12.10）が生まれた。計10回の遺骨発掘と共に遺族探しと相互文化理解の内容。延べ2000人を超える若者たちが民族・国境を越えて取り組んできた。土中から姿を現した遺骨と出会う中で、若者たちと一緒に私も闇に埋もれていた加害・被害の歴史に立ち会った。

3. 犠牲者の「いのち」の声を聞き追悼

発掘作業の中で、人骨と共に、個人の「日常生活」の品が地上に導き出された。追悼式を行った。殿平さんと私は仏教式、その後キリスト教式、アイヌ式、儒教式（朝鮮式）で死者を追悼。宗教を持たない人たちの追悼時間も設けた。2001年には発掘後、儒教式土饅頭型のお墓が若者たちの手によってつくられた。「犠牲になった一人ひとりの個人史を復元し、一つの生命としての尊厳性を取り戻そうとした」（チョン・ビョンホ前著）取り組みといえる。殿平さんは、戦後生まれの若者は直接には侵略・植民地支配の責任はないが、戦後遺骨を放置したことの問題点を指摘。その上で、「発掘に参加した者は犠牲者とは無縁ではいられなくなる。想像力を駆使して亡き遺骨の声を聞くことが必要」と参加者たちに語ってきた。朱鞠内は、戦争未経験の若者たちが遺骨と出会う場になり、過去を学び民族を越えて共に未来を目指す東アジアの平和と和解の拠点に育っている。

4. 韓国への遺骨奉還と新たな出会いとつながり

2015年9月、朝鮮人の遺骨115体を韓国に奉還する「70年ぶりの里帰り」が実現。犠牲者が朝鮮半島から北海道へ連行された道を逆に故郷に戻るものだった。総行程3500km、10日間のバスと船の旅だった。9月11日、北海道一乗寺を皮切りに札幌別院・東京築地本願寺・京都西本願寺・大阪津村別院などで法要を営みつつ9月16日、本願寺広島別院着。広島別院の安部恵証輪番を導師に約100名が参列して追悼法要が執り行われた。

会場で、李実根さんを中心に取り組んだ、高暮ダム朝鮮人強制労働犠牲者追悼学習を発表する広島朝鮮学校や広島高校生平和ゼミナール。彼らを温かく見守り励ましたのは、韓国代表のビョンホさんや韓国の遺族だった。

19日、ソウル市庁舎前広場での大追悼式（葬儀）に市民ら1000人が参列。韓国の高校生たちが遺骨を会場に運んだ。カトリック、プロテスタント、円仏教、天道教、韓国仏教、そして私たち日本仏教による追悼法要を挙行した。ソウル市長の挨拶は異郷の地で不本意に亡くなった遺骨を温かくお迎えしようとする思いがこもっていた。20日、パジュ市ソウル市立墓地で納骨した。犠牲者への追悼と平和と民族和解の地が新たに誕生した。全国と韓国で多くの人びとや現地の課題に出会い、新たな交流が生まれた。

韓国の遺骨奉還実行委員に大学生たちがいた。私はインタビューを受け、遺骨奉還活動と高暮ダム朝鮮人強制労働犠牲者追悼碑建立の歴史に触れた。彼らに依頼され、翌2016年8月、韓国の大学生8名（ソウル大学、中央大学）を広島に招いた。日韓交流も兼ねて私の教え子の日本人大学生（2名）も一緒に、友人（金子哲夫さん）と共に高暮ダムに引率した。民主化闘争で培ったビョンホさんたちの「自由と平和」の精神が、広く韓国の学生たちに浸透していると感じた。

5. 「笹の墓標博物館」再建に向けて

2020年、雪の重さで「笹の墓標展示館」が倒壊し、翌年は庫裏も焼失した。無くしてはならないとの思いが高まり、再建運動が始まった。全国（西本願寺や全国各地の別院、キリスト教会等）で「笹の墓標」巡回展が開催された。本願寺広島別院では2023年10月3日～10日に巡回展。展示館の所蔵資料以外にも、高暮ダム朝鮮人強制労働問題や在日韓国人被爆者、中国人強制連行問題のパネルも紹介。広島朝鮮学校の生徒たちの絵画作品なども展示した。10日は本堂で榮俊英輪番を導師に追悼法要を営み、約150人が参列した。展示館再生実行委員会事務局を務めるキム・ヨンヒョン（金英鉉）さんが講演し、展示館の歩みや再建への思いを語った。広島朝鮮学校高級部生徒全29人が、平和を願い「イムジン河」などを合唱した。国の内外から6600万円を超える募金が集まり、こうして新しく「博物館」として完成した。

6. 「博物館」開館の意義と展示

9月28日式典の主催者挨拶で、殿平さんが「3000人を超える人たちからの募金で開館でき感謝申し上げます」と語った。殿平さんやビョンホさんたちがテープカット。新館長に就任したのはフォトグラファーの矢嶋幸さん。なお館の名称に『強制労働』を記したことに矢嶋さんは、「事実を事実として伝える必要がある。日本政府は『旧朝鮮半島出身労働者問題』と呼ぶこと

で強制性を取り払おうとしているが、それに対する私たちの抵抗。堂々と強制労働の事実と使う」（『週刊金曜日』2024.11.22）。コンパクトで落ち着いた洗練された館内展示。1869年に政府がアイヌモシリに「開拓使」を設置したことから始まる日本の植民地政策の年表や、北海道のタコ部屋労働が記され、その歴史の中に戦時下の強制労働が位置付けられまとめられている。犠牲者の遺骨と位牌も安置。「東アジア共同ワークショップ」や、「70年ぶりの里帰り」も写真と共に紹介されている。

お世話になった「第九条の会ヒロシマ」の皆様へお礼を申し上げます。機会があれば「強制労働博物館」において下さい。今後も「東アジア共同ワークショップ」の若者たちへのご支援をお願いいたします。

課題—過去に向き合い

東アジアの平和と和解を目指して

遺骨問題は、日本政府・関連企業が責任を負って謝罪・補償すべきであるにも関わらず、いまだ放置。1951年生まれのテッサ・モーリス・スズキ氏は指摘する。「過去の侵略行為を支えた偏見も現在に生き続けており、それを排除するために積極的な行動に出ない限り、現在の世代のなかにしっかりと居すわりつづける。そうした侵略行為を引きおこしたという意味では私たちに責任はないかもしれないが、そのおかげで今の私たちがこうしてあるという意味では「連累」している」。

昨今、周辺国の脅威ばかりが強調される東アジアでは、それに対抗する軸として、過去の歴史に真摯に向き合い、国や民族を超えて戦争を許さない、私たち市民同士のつながりが大切だと思う。東アジア共同ワークショップの若者たちが、反戦・平和・和解に取り組んできた朱鞠内の「強制労働博物館」のような拠点が、全国各地に生まれて欲しいと願っている。

（2025年2月2日第九条の会ヒロシマ会報用に改定）

【追悼】チョン・ビョンホ（鄭炳浩）さん

開館から1か月後、ビョンホさんに肺がんが見つかり、肺炎を併発し12月8日逝去。69歳。9日、ソウルで殿平さんと仏教式葬儀営む。

*2024年2月、朱鞠内でビョンホさんから頂いた本

鄭炳浩著『人類学者がのぞいた北朝鮮

—苦難と微笑の国』青土社2022.10.10





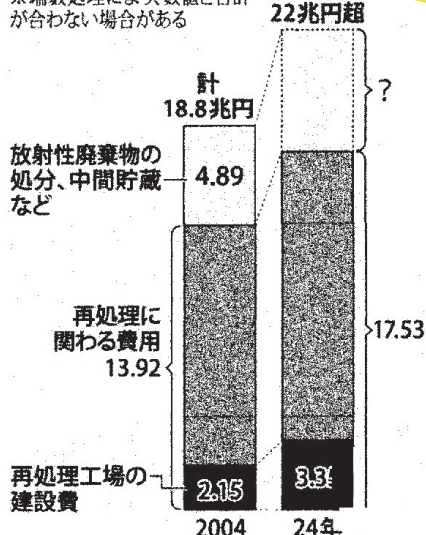
戸野寿美江 命の保障
 渡辺清文 奮い立たせる心のよりどころ
 濱中康子 空気・水・光と同じく生きるために必要欠くことのできないものです
 中市後千秋 日本の平和を守り、世界の平和に寄与できるかけがえのないお宝です
 佐々木昭示 自衛隊を解体、改変し、海外救助隊に
 三原憲法朗読会 焦土に芽生えた不戦の木だ
 縄文杉に並ぶ巨樹となれ
 杉林晴行 生きる保障書
 國貞守男 希望です
 藤木百合子 希望
 今野洋子 守り守られ大切に育て続ける責任がある
 安部寛治 行動を起こす原点
 福西清三 戦争で犠牲になった人々の遺言です
 脇義重 戦争で他国民を殺さない、他国民から殺されない、平和的生存権の宣言です
 村上由香思・和代 自分を守ってくれるもの
 中山誠一 護らなくてはいけないもの、
 政府は守らなくてはならないもの
 永山良樹・永山京子 タカラ 大軍拡に反対します
 宗近弘武 全日本国民の平和と民主主義的生活の唯一の保障キップです
 黒木潤 自分が守られている存在です。
 だから守らなくてはいけないものです
 西村善次 たからもの
 富矢伸史 あらゆる面で必要不可欠なものです。
 絶対に皆で守りぬきましょう
 松浦賢治 それなしでは生きられない空気のようなもの
 栗岡成人 平和と人権の道標
 亀田康子 改憲させない
 渡辺栄子 今この時代を生きる私の命を守る法
 斎藤義夫 9条を無視して軍事費増、米軍の指揮権に入るなど許せない
 大村実和子 柱。 教えてほしい。学びたい。
 考え続けたい。知ってほしい。
 上地信乃 誇り
 石黒由佳 平和への道標
 高田由美 生命そのもの
 柳谷恵津子 ホコリ
 上野勝 改憲する 天皇制を廃止する
 東道成 生きていく指標
 坂本照子 平和の礎
 大西五己 生活の価値観

西原孝夫 言論
 中村雅之・中村松美 くらし
 上屋安信 無意識の宝物
 恩地いつみ 心のささえ
 沢口悦子 タカラ
 青野篤子 いのち
 小川桂絲香 誇り
 渡辺吉男 アジア人と日本人を初めとして
 二度と殺したり殺されたりしない誓い
 牛島忠夫 生活の指針です
 金井英樹 平和的生存権と幸福追求権の保証書だ
 柳つとむ 空気みたいなものかな
 本多訓 今を生きる私たちの平和を願う砦であり、
 明日の子どもたちへの希望のバトンです
 坂中保 羅針盤です
 栗城理一 わたしにとって日本国憲法はプロメテウスの火だ
 春藤かづ子 くらしそのもの
 加川恵子 人生の大黒柱
 山本繁・朝栄 ミサイルよりも暮らしを
 ミサイルより震災復興を
 世界之宝
 世界之宝
 笹栗双美子・紀彦 タカラ
 ひろさわ内科医院 愛と平和と自由
 竹田淳子 出発点
 中野博之 出発点
 佐谷健児・峰世・圭 わたしにとって日本国憲法は
 幸京子 体の真ん中にある芯です
 タカラ
 森本笑佐子 大切な命
 廣井志保 ささえ
 小柳保征 力から
 南晃・南清美 命の礎
 徳重政子 ひかり
 浜本純逸・宏子 同じ歳です
 精松淳 守りつづけ伝えつづける
 森山真理子 たくす
 碓井悦子 世界を照らす光明
 岩下健一 すべての人の人権を守る最強の防衛費
 曾我了二・弘子 宝物です
 新藤知樹 だいじです
 玉田一郎 戦争犠牲者からの贈り物です 命です
 武田隆雄 宝物です。合掌
 守るべきもの
 小川家子 父母から贈られた宝物です
 山今彰 わたしにとって日本国憲法は最愛の家族である
 川本正晴 非戦の願いは仏教者の願い
 寺本是精 正義と非戦は憲法にある
 坂健二 私にとって憲法九条こそが
 小出慶子 「唯一無二の平和へのパスポート」です
 お守り
 鈴木美香 サンソ酸素
 小野邦英 宝
 古河久江 たから
 山田律子 “日本は戦争をしない国”だと
 鵜飼礼子 世界に宣言するものです
 澤野重男 ヒロシマの叫び忘れないで！
 郵政ユニオン郡山支部 軍国主義に戻らないためのクサビ
 関光雄 平和
 田村栄子 憲法9条こそ生きる力
 渡辺ひろ子 未来への約束
 高麻敏子 憲法はいのちです
 伊藤真理子 いのち
 比佐和美 宝物
 菅野高至 いのちです！
 中司勝人・中司京子 タカラ
 松本漫子・松本正俊 核廃絶が私の安全保障

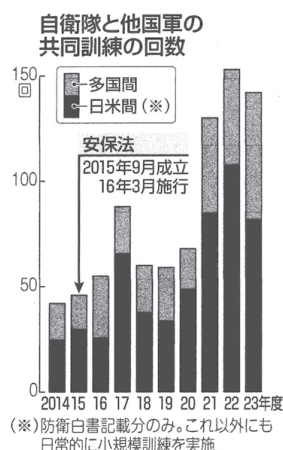
(2025・1～3月11日)

核燃料サイクルの費用

※端数処理により、数値と合計が合わない場合がある



こんな記事見つけ



(毎日新聞 20250303)

(東京新聞 2024919)

日本軍「慰安婦」ひろしまネットワークの活動

日本軍「慰安婦」問題解決 水曜街頭行動



2025 年
1月8日

日時：4/2、5/7、6/4、7/2（原則第1水曜日）12時～
場所：広島市内本通り電停前（青山側）
内容：配布、『岩のように』歌とダンス



日本でも確かに広がる日本軍「慰安婦」問題と現代につながる性暴力～パネル展
2025年2月 ゆいぽーと（岡原美知子さん写真提供）

活動報告（第九条の会ヒロシマほか 関連団体、実行委員会含む）

- 1月 8日（水） 日本軍「慰安婦」問題解決 水曜行動（青山前）12時
10日（金） 島根原発2号機営業運転開始中電前抗議行動 上関原発止めよう！広島ネットワーク & 抗議文提出
12日（日） 新春討論会 問題提起：湯浅一郎さん 広島弁護士会館2F会議室 12時～
13日（月・休） 新成人にチラシ配布（九条の会・はつかいち） 10:00～11:00 廿日市市さくらびあ前
14日（火） ピースリンク広島・呉・岩国 17時半～ 呉駅前街宣 & 例会
17日（金） ストップ本郷産廃行政裁判 広島高裁3F 13:45～
18日（土） 岩国基地の拡張・強化反対する広島県住民の会設立記念集会&総会 広島弁護士会館
22日（水） 第九条の会ヒロシマ世話人会⑫ 14時～ 広島国際会議場3F研修室
キャンドルアピール -NUCLEAR & HUMANITY CAN'T COEXIST!- 原爆ドーム前
26日（日） 韓国民衆運動に連帯 13時～ 広島市市民交流プラザ 4階ギャラリーB
27日（月） 日東電工争議支援・街宣行動（昼休み緊急行動）12時～13時
2月 1日（土） 「被爆80年に『中国人』被爆者の碑を創る意義」中村平さんほか 資料館
「1の日」行動 ミャンマーデーターから4周年追悼集会 原爆ドーム前
1日～22日 日本軍「慰安婦」問題と現代につながる性暴力パネル展
5日（水） 日本軍「慰安婦」問題解決 水曜行動（青山前）12時
8日（土） 「性の多様性を考える道徳教科書ワークショップ」 ゆいぽーと
9日（日） 「ひとりのオモニの出会いと歩み」朴富さん 広島市留学生会館
11日（日・休） 「建国記念の日」を問う広島集会 広島カトリック会館
14日（金） 第九条の会ヒロシマ世話人会⑬ 14時～ 広島国際会議場3F研修室
15日（土） 参院選をどう闘うかー衆院選東京24区 菱山南帆子さん 広島弁護士会館
19日（水） 上関原発止めよう！広島ネットワーク 中電本社前行動 12時
ピースリンク広島・呉・岩国 17時半～ 呉駅前街宣 & 例会
21～22日 「戦争を止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」設立集会（鹿児島）
24日（日） ウクライナに平和を！ 広島宗教者・市民の集い 原爆ドーム前
ノーベル平和賞受賞：現地取材記者による報告 広島弁護士会館
28日（金） 日東電工争議支援・街宣行動（昼休み緊急行動）12時～13時
3月 1日（土） 「1の日行動」ミャンマーを忘れないで！広島本通り電停前
12・3韓国非常戒厳、日韓国交60周年を考える：金栄鎬講演会 広島市民交流プラザ
2日（日） 「貧国強兵化する日本」ひろしま医療人・九条の会 宮崎礼二講演会
上映会「GAMA月桃の花」 広島YMCA国際文化ホール
3日（月） ヒロシマ総がかり「3の日」行動 広島本通り電停前 17時半～
5日（水） 日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク水曜行動 本通り電停前 12時
8日（土） 3.8国際女性デーフラワーデモ 本通り電停前 17時半～字～
呉の歴史を振り返り平和な広島湾を考える是恒講演会 九条の会-はつかいち
11日（火） 上関原発止めよう！広島ネットワーク 3.11中電本社前行動
フクシマ原発事故を忘れない3.11集会 大島堅一さん講演ほか 広島弁護士会館
12日（水） 第九条の会ヒロシマ世話人会⑭ 14時～ 広島国際会議場3F研修室
15日（土） 教科書ネット 美甘教材批判市民シンポ 高橋博子さん他 弁護士会館
20日（木・休） 第九条の会ヒロシマ33周年記念講演会&総会 資料館会議室1
22日（土） 自衛隊海上輸送群配備 星野潔講演会 ビューポートくれ大会議室
24日（月） ピースリンク自衛隊海上輸送群配備抗議行動 海自呉総監部前
28日（金） 日東電工争議支援・街宣行動（昼休み緊急行動）12時～13時
4月 1日（火） 「1の日行動」ミャンマーを忘れないで！ 広島本通り電停前
2日（水） 第九条の会ヒロシマ会報124号 県内発送 国際会議場3F



広島県北の行動



3.11 フクシマを忘れない中電前行動



海自呉Fバースに陸自輸送艦「にほんばれ」が停泊

お知らせ

◆広島キリスト教社会館のとりくみー学童保育とデイケアの現状ー

4月13日(日) 14時00分～16時30分

西区地域福祉センター3階大会議室

講師：須磨勇記さん、迫田和生さん、須佐美愛子さん

資料代：500円(学生、障がい者無料)

主催：「広島市差別のない人権尊重のまちづくり条例」

制定を求めるネットワーク

連絡先：joureiseitei.net@gmail.com (録画配信申込先)

◆気候変動の現状と私たちができること

4月19日(土) 13時半～ 広島弁護士会館

主催：つながる気候市民広場

◆チェルノビリ原発事故を忘れない！中国電力本社前行動

4月25日(金) 12時～13時 中国電力本社前

13時～ 中国電力への要請行動

主催：上関原発止めよう！広島ネットワーク

連絡先：090-6835-8391(渡田)

◆4・28「主権回復の日」を問うヒロシマ集会

ー琉球弧で進む戦争体制ー

4月28日(月) 18:30～ 広島市民交流プラザ5F 研C

オンラインでのお話：「再び戦場化される八重山諸島」

講師：藤井幸子さん(石垣島の平和と自然を守る市民連絡会)

主催：広島と沖縄をむすぶDougigwar

連絡先：090-3373-5083(新田)

◆日本軍「慰安婦」問題解決ひろしま結成13周年記念集会

◆ 李吟京が語る！ 文玉珠と森川万智子の絆と人生

◆ 4月27日(日) 14時～ 広島市民交流プラザ(北棟6F)

◆ 録画配信申込/締切4月22日/配信は4週間予定

◆ <https://forms.gle/zouAuhG7ycBzG9xKA>

◆ 講師：李吟京さん(聖公会大学研究教授)

◆ 参加費：会場・録画配信とも/1000円(学生・障がい者/無料)

◆ 日本軍「慰安婦」問題から現代につながる性暴力を考えるパネル展

5月2日(金) 12時～15日(木) 16時(月曜・休館)

広島市民交流プラザ(南棟1Fロビー)/無料

主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク

連絡先：090-3632-1410

◆憲法シール投票「大軍拡・増税にあなたは賛成？反対？」

4月29日(火・休) 11時～12時 宮島口桟橋付近

主催：九条の会・はつかいち

連絡先：090-3373-5083(新田)

◆日本全国大空襲・沖縄戦・広島・長崎原爆ジェノサイドから80年一軍都広島131年の歴史から考える天皇裕仁と

天皇制の「招爆責任」・朝鮮人被爆者問題ー

5月10日(土) 15時半～ 広島弁護士会館2階会議室

金鎮湖(キン・ヂノ)さん(広島県朝鮮人被爆者協議会会長)

「朝鮮人被爆者の立場から訴える」

田中利幸さん(歴史家・録画)「重慶爆撃・広島・長崎

原爆ジェノサイドからガザ・ジェノサイドまで」

主 催：8・6ヒロシマ平和へのつどい2025実行委員会

連絡先 090-4740-4608(久野) 6tudo.hiroshima@gmail.com

◆ミャンマー水かけまつり

☆ ミャンマーの旧正月、日本の春と一緒に祝おう ☆

5月18日(日) 11時半～17時 ひろしまゲートパーク

主催 Hiroshima Myanmar Community

連絡先 小武正教 080-5233-3429

◆世界核被害者フォーラム・プレ企画

小出裕章さん講演会「原発と核被害」

5月24日(土) 15時～ 大手町平和ビル5F 大会議室

主催：核兵器廃絶をめざすヒロシマの会

連絡先：090-9060-1809(藤元)

◆第21回共生フォーラムセミナー

「在日」と向き合うー記録することの意味と意義ー

5月25日(日) 14時30分～ 西区地域福祉センター3階

講師 イトウソノミさん(映像作家・文筆家)

参加資料代 500円(正会員・学生無料) 会員に録画配信有

主催 NPO 法人共生フォーラムひろしま

後援 広島市・広島市教育委員会

連絡先 Eメール kyosei.fh@gmail.com 070-3771-9235

◆上映会「サイレントフォールアウト」米国本土の核被ばく

5月25日(日) 14:00～ 廿日市市商工保健会館交流プラザ

参加費：800円(学生・障がい者無料)

主催：九条の会・はつかいち 協力：HANWA

連絡先：090-7542-0544(西浦)

◆別姓訴訟 東京地裁・第4回期日

◆ 5月15日(木) 11時～ 東京地方裁判所 103号法廷(大法廷)

◆別姓訴訟 札幌地裁・第3回期日

6月11日(水) 10時30分～11時(予定)

札幌地方裁判所 805号法廷

☆どちらも期日終了後、期日報告会を行う予定です。

問合せ：bessei2018@gmail.com

期日の連絡：公式LINEアカウント <https://lin.ee/nHsT6MC>

事務局から

今年もやります！ 8.6 新聞意見広告 25 にご支援を！

- ・今年も 8.6 新聞意見広告に取り組みます。皆さんと共に大軍拡・改憲反対！ 命・人権を守る政治を求め意思表示をしましょう。
- ・みんなで作る意見広告です。「〇〇〇が私の安全保障」のメッセージをお待ちしています。ご協力・ご支援ください。
- ・封筒のタックシールに、皆さんの入金状況を記載しています。2025の賛同金、年会費、カンパなどご確認の上、(タイムラグもありますが)もし間違いがあれば、遠慮なくご連絡ください。

後記

- ・Mネット(民法改正情報)と連合が協働で「選択的夫婦別姓」署名に取り組んでいるなんて。ご協力ください。今回こそ実現！
- ・今年も 8.6 新聞意見広告取り組みます！ 皆さんの周りに呼びかけてください。1枚の振替用紙に何人でも書けるだけ。
- ・原爆資料館会議室を核廃絶&大軍拡問題で使用できました！？
- ・今年に入り、沖縄に取り組むDougigwar2人が逝ってしまった。悲しい。けどふたりの思いを継いでいかなきゃ。
- ・松江行き的高速バスでの会報校正は、能率ばっちり。D
- ・今年は冬が寒く長かったですね。だからこそ春が嬉しい。T